



子供たちに伝えたい日本のよさ

『日本の伝統的な芸術文化が世界中に！』

江戸時代の日本の伝統的な芸術文化が、当時のフランスやイギリス、ドイツなどのヨーロッパ各国で高い評価を受け、世界の工芸品や美術作品に大きな影響を与えました。

私たちが感銘を受ける海外の工芸品や美術作品などにも、実は江戸時代の日本の伝統的な芸術文化の影響が認められることがあります。

第3号では、このような芸術文化による日本と世界のつながりについてお伝えします。

【このような場面での活用が考えられます。】

- 朝礼の講話
- 関連する授業や道徳の授業の導入での話題提供や終末での説話
- 学校だよりや学級だよりのコラム
- 学年集会や学校行事等での講話 等



今月のテーマ —優れた芸術—

世界に影響を与えた日本の芸術

江戸時代の芸術文化が、世界の文化に影響を与えています。

19世紀後半にフランスのパリを中心に、日本の美術作品に対する評価が高まり、ジャポニスム（日本趣味）と呼ばれました。

ジャポニスムの原点となったものに、日本の有田焼や薩摩焼などの色絵磁器や、蒔絵（まきえ。漆で絵を描いて、金をまいた漆器）、七宝（しっぽう）、銀器、象嵌（そうがん）などの精緻な工芸品があります。

江戸時代の日本では、とても高い技術による精巧な作品が各地で作られました。江戸幕府は藩ごとに技術を競わせ、また、藩主も産業を奨励し、世界の人々を圧倒するほどの工芸品が生まれたのです。

特に有田焼の柿右衛門磁器は評価が高く、需要が追いつかなかったため、ドイツ南東部の都市マイセンなどでは、有田焼の図案をまねた磁器を作り始めました。

また、蒔絵もヨーロッパ各国の王侯貴族からの評価が高く、ロンドン、パリ、アムステルダム、マイセン、ベルリンなどの都市で、日本の蒔絵を模倣して多くの漆器が作られました。

印象派の画家として有名なマネ、モネ、ドガ、ゴッホらも、浮世絵に見られる独自の空間構成、拡大と縮小、非対称などの構図や、対比的な色使いとぼかしの奥行などを研究し、自己の世界を広げるなど、大きな影響を受けました。

海外での浮世絵の芸術的評価は高く、これらの作家の作品には、浮世絵の影響を見ることができます。



フランス製のペンケース
日本の風俗図を基に製作

このように、江戸時代の芸術文化は世界に大きな影響を与えてきたことが分かります。

日本の伝統的な芸術文化の影響を受けているものは、他にもないでしょうか。海外の文化や現代の私たちの生活の中からも、探してみましょう。

[参考] 太田記念美術館 (<http://www.ukiyoe-ota-muse.jp/>) では、江戸時代の浮世絵を鑑賞したり、アダチ版画研究所 (<https://www.adachi-hanga.com/>) では、浮世絵の技術を現代に継承した職人による浮世絵制作の実演を見たりすることができます。

日本の伝統・文化紹介

【遊び「いろはかるた」】



読み札を読み上げ、絵札を取り合う「いろはかるた」は、江戸時代の天明年間（1781～1788年）ごろ上方で成立し、文化年間（1804～1817年）には江戸でもつくられました。

上方と江戸の「いろはかるた」を比べてみると、同じ札もありますが、それぞれ独自のものも見られます。

上方	江戸
「一寸先は闇」	「犬も歩けば棒にあたる」
「猫に小判」	「念には念を入れよ」
「餅は餅屋」	「門前の小僧習わぬ経を読む」

「いろはかるた」に見られることわざには、日本人の知恵が凝縮され、現在でも私たちの行動規範を形作っています。



「すみだ郷土かるた」



「せたがやかるた」



「三宅島ジオカルタ」

最近では、地域の特色を生かしたかるたも多くつくられています。

★「かるた」が地域文化を活性化★

阪神・淡路大震災後、神戸市長田区の御菅（みすが）では、御菅の町をテーマにした「御菅かるた」がつくられました。他の町にはないけれど、御菅の各家庭には同じものが一つずつある、という思いから、『御菅百人百色かるたを作ろう！』と企画されました。平成16年には、133人の手でオリジナルの「いろはかるた」がつくり上げられました。



特色ある取組

【中央区立阪本小学校】

「邦楽教室」の取組



中央区立阪本小学校では、日本橋地区に立地する特徴を生かし、地域に根付く日本の伝統・文化を継承し、身に付けさせる取組をすすめています。

総合的な学習の時間、音楽の時間、放課後の時間を利用して、箏、十七絃、太鼓、鉦、篠笛、三味線等の和楽器の演奏技能を学び、楽器やおはやしに慣れ親しむ機会を作っています。

左上の写真は「第59期TBSこども音楽コンクール：東京・江戸川地区大会」の様子です。3年生から6年生までが出演し、邦楽合唱奏「よみがえれ日本の歌」（仲林光子編曲）を、日本の復興を願ってみんなで心を込めて演奏しました。

伝統・文化に関するイベント等

★都立多摩図書館

○「東京マガジンバンク」企画展示

「創刊号に見る明治・大正の時代 一文芸誌を中心に」

後期（大正期）平成27年3月6日（金）から5月6日（水）まで

開館時間：午前9時30分から午後7時まで（土日祝日は午後5時まで）

※大正期では、大正デモクラシーの影響を受け、多様化した雑誌の姿を紹介しています。北原白秋、山田耕作らが創刊した『詩と音楽』や大衆娯楽雑誌『キング』などのほか、大正時代に創刊し、現在まで刊行されている雑誌も展示します。

○青少年エリアミニ展示「TAMA selection」

「TAMA selection」は、中高生におすすめの図書ミニ展示です。3月下旬からは、サッカー日本代表に帯同し、できたての日本食メニューなどを選手に提供しているシェフの書いた『サムライブルーの料理人』（西芳輝著 白水社）など、7冊のノンフィクションの本を展示します。

★都立中央図書館

○トピック展示「高校生の皆さん、読書と書評合戦を応援します」

（平成27年3月27日（金）から5月28日（木）まで 4階企画展示室）

高校生書評合戦首都大会2014のチャンプ本をはじめ、高校生のおすすめ本や本の選び方のヒントとなる本を紹介します。

○ミニ展示「花見日和」

（平成27年3月6日（金）から5月6日（水）まで 3階人文科学系資料・閲覧室）

『桜花薮（おうかそう）』三熊露香 画 フジアート出版 1980.4刊 ほか、春の花々と花見に関する資料を展示しています。

※桜を愛した江戸時代の画家、三熊花顔の遺稿を同じく画家である妹の、三熊露香が、描き写し、完成させたものが『桜花薮』です。

★東京都江戸東京博物館

【常設展示室リニューアル関連イベント】

○リニューアル記念企画展 特別公開 広重「名所江戸百景」展

江戸の都市景観と風俗を描いた多彩な「名所江戸百景」は、歌川広重最晩年の代表作で、遠近を強調する斬新な構図をはじめ、彫り・摺りにも優れ、完成度の高い作品です。フランス後期印象派のゴッホに影響を与えたことでも知られ、国内外で最も有名なシリーズの一つです。

このたび、常設展示室のリニューアルを記念し、全120枚（二代広重作画、目録含む）を前・後期に分けて展示いたします。

【会期】平成27年3月28日（土）から5月10日（日）まで

※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきたいと考えております。

【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課

03-5320-6869